

(11) 校務分掌のどの部分を改善したか。

(上段人員、下段%)

内 容		小 校			中 校			高 校		
		A	B	C	A	B	C	A	B	C
ア 教務部面		52	48	12	38	35	28	17	24	14
		13.4	15.9	5.0	15.6	15.8	13.3	13.9	20.3	11.6
イ 教科指導部面		63	52	46	39	35	35	16	18	15
		16.2	17.3	19.2	16.0	15.8	16.7	13.1	15.3	12.4
ウ 生徒指導部面		77	58	46	46	48	45	35	28	34
		19.8	19.3	19.2	18.9	21.6	21.4	28.7	23.7	28.1
エ 教員研修部面		70	56	54	40	33	35	19	17	17
		18.0	18.6	22.6	16.4	14.9	16.7	15.6	14.4	14.0
オ 物品管理部面		48	33	32	35	29	29	11	13	15
		12.3	11.0	13.4	14.3	13.1	13.8	9.0	11.0	12.4
カ 事務部面		59	40	39	36	35	31	13	10	12
		15.2	13.3	16.3	14.8	15.8	14.8	10.7	8.5	9.9
キ その他	㊦教育活動一般	10	8	7	9	5	7	11	8	14
		2.6	2.7	2.9	3.7	2.3	3.3	9.0	6.8	11.6
	㊧教育組織面	10	6	3	1					
		2.6	2.0	1.3	0.4					
	㊨教育研究部面					1				
						0.5				
	㊩定例会					1				
						0.5				

改善部面について、比率の高いものをみると、小・中・高等学校をとおして、生徒指導部面、教員研修部面になる。具体的内容として

生徒指導部面

小学校

ア 学級担任の独自性から学年による協力体制の指導にする。

イ 日常生活の遊びの時間を重視し、観察、指導の充実をはかる。

ウ 生徒指導について、学校と家庭の役割を再検討し、指導の一体化をはかる。

中学校

ア 具体的な指導計画として、個別化をはかり、面接の機会を多くする。

イ 情報収集の機会を多くし、生活相談を組織的に行なう。

高等学校

ア 地域ぐるみの指導体制をはかるため、具体的な資料収集を組織的に行なう。

イ 父兄との連絡提携の機会を多くし、進路相談の時間を強化する。

ウ きめ細かな具体計画により、生活相談の機会を多くする。

教員研修部面

小・中学校

ア 教育活動の実践と研究の一体化をはかり、常時が研修である体制にする。

イ 勤務内容に位置づけた、協力的な研修を重視し、継続的に行なう。

高等学校

ア 教育活動の個別化をめざし、指導方法、技術の研修につとめる。

イ 共通課題による校内研修を組織的に行なう。